

No.40号

社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3
国立教育会館内 Tel 03-3580-0608

NIEとはなにか

(社)全国社会教育委員連合理事
新潟県社会教育委員連絡協議会会長

原田新司

学窓を離れてからは、教育とは縁がうすかった。新聞記者生活が長かったので、学校にはよく出入りしたが、教育行政を担当したり、教育欄を受け持ったりはしなかった。それがNIEという教育運動に深くかかわって十年を越す。この原稿を執筆している時点では日本新聞協会NIE委員会の委員で、新潟県NIE推進協議会副会長、新潟日報社NIE推進委員会委員長であるが、いまだに、NIEとはなにかと聞かれる。もともと当時の文部大臣も同様だったのだからやむを得ないが、新聞協会の資料によると、NIEとは「教育に新聞を」と訳し、先生方が新聞を教材に使って児童・生徒の学習意欲を刺激する運動である。一九三〇年代、米国のニューヨーク・タイムスが始め、いまでは新聞社の半分近い七百社が取り組み、小・中・高校六万七千校が実施している。

合衆国の基盤も揺るぎかねない。五五年、アイオワ州で実施した「中学生の文字との接触調査」では、約四割が教室外ではまったく文字を読んでいないという衝撃的な結果が出た。これがきっかけで組織的なNIEが開始された。情報が映像メディアに偏っている子供たちの実態を分析し、警鐘を鳴らしたJ・ハリー「滅びゆく思考力」が米国教育界で注目されているが、これは先進各国共通の傾向で、対するNIEも三十二か国で実施されている。日本では十一年前、「教育と新聞の役割にかかわる本質的な課題」としてNIEが提唱された。新聞の無購読者の増加が心配され、若い人たちの新聞離れは、文字離れにとどまらず社会離れにつながっている、と分析している。しかし、自分で選び、自分で読むには主体的な努力が必要である。それだけに読み方、使い方、比べ方など新聞の活用方法の指導、工夫も大切である。

新潟県はNIEの先進県と自負している。県教委が、学校における情報教育を重視し、文字メディア、映像メディア、コンピュータを柱にし、九一年度からNIE教育研究校小・中六か校を指定してくれた。翌年度、地方紙と全国紙が協力体制を整え、新聞提供セミナー開設などの事業を展開した。いずれも全国に先がけての試みで、NIE普及の原動力となった。

九六年度のNIE実施者は四十五都道府県、二百十八校に急増し、第一回NIE全国大会を開くところまで来た。学習効果も着々とあがり、新聞を通して家庭の理解と協力の輪も広がっている、といったうれしい調査結果も出た。

新潟県では、学校を対象にしたNIEは県NIE推進協議会にまかせ、新潟日報社としては生涯学習に対象を絞っている。新聞は、学校卒業後の最高の教材であり、生涯変わることはない、と信じている。

さる六月、十日町市で第三回生涯学習と新聞のシンポジウムを開催したが、第一部の「地域作りと新聞の活用」では、いじめ・登校拒否、高齢化社会、地域おこしをテーマに三分科会もつた。第二部の全体会では文部省大臣官房審議官(当時)河上恭雄氏の「生涯学習と地域」の講演を聞いた。

ここに来てNIEは社会教育の一翼をになうことができたと思っている。来年度、新潟県で開かれる全国生涯学習フェスティバルにも積極的に参加するつもりだ。

第38回全国社会教育研究大会(茨城大会)を終えて

借楽園の木立ちにも秋の深まりを感じさせる水戸市に、全国各地より二百余名の社会教育関係者の方々をお迎えして第三十八回全国社会教育研究大会(茨城大会)が、平成八年十月二十三日から二十五日まで、茨城県立県民文化センターを主会場として開催されました。前回の徳川御三家紀州藩ゆかりの地和歌山大会に続いて、同じ徳川御三家の水戸藩で知られた茨城県水戸市での開催に予想を上回る多くの方々に御参集いただき、大きな成果を収めることが出来ました。関東甲信越静大会は前月の九月に新潟県で開催されたこと、そして同じ社会教育関連の全国公民館研究大会が島根県で同じ日に開催されたことなどから、参加者が大きく減ることを心配したのですが、生涯学習を重視されています皆様の熱意の表れとして、活気に溢れる参加者で各会場とも埋め尽されました。

「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」が施行され六か年が経過した今日、国や地方公共団体における生涯学習推進体制の整備が大きく進展し、それぞれの地域の特色を生かした、生涯学習振興のための関連施策が積極的に展開されている

なかで「一人ひとりの心が満たされる、魅力ある社会教育の在り方を考える」と研究主題を設定いたしました。

問題提起者から貴重な事例や地域の課題が提起されるとともに、参加者からも積極的な発言があり、熱気に溢れた討議が続けられ全国大会の意義そのものが遺憾なく発揮されました。

最後に、今後の努力を誓い合いました。決意し、次期開催地である北海道社会教育委員連絡協議会の新谷淳治会長から、次回の全国大会の案内を兼ねた挨拶をいただき幕を閉じました。

開会行事の中で、全国社教連の鈴木勲会長が「社会教育のノウハウ、実績を十分に果たすべく努めていきましょう」と力強く呼びかけられたことが印象的でした。このあと、長年にわたり社会教育の振興に尽力されました六十九名の方々に対し表彰があり、壇上の受賞者に万雷の拍手がおくられました。

開会行事に引き続き行われましたシンポジウムは「国際化時代における社会教育の在り方を考える」と題して進められました。女性で初めて茨城県の生涯学習課長の要職にあたられ、現在は水戸市内の小学校長の和田洋子さんが、ユーモアに富む司会で進行、大の石津政雄村長さん。水戸女性会議会長の静岡敏子さん。茨城大学助教の長谷川幸介さん。茨城アジアカ教育基金を支える会事務局長の中川紀子さんらのお話の中にこれからの社会教育の方向を示す発言で、会場から共感の拍手が湧きました。

特に関係で、現代的な課題全てについて討議することは出来ませんでした。が八部会の「男女共同参画社会」に大きな関心が寄せられ、部会参加者も多く現代的な課題だけに真剣な討議が続けられました。

ロービーいっばいに出店した土産コーナーも好評で混雑をきわめ、茨城の物産が全国に運ばれ喜ばれたことも、収穫の一つでした。水戸を茨城を思い出し、また再び足を運んで下さる機会にでもなれば幸いです。

開会行事に引き続き行われましたシンポジウムは「国際化時代における社会教育の在り方を考える」と題して進められました。女性で初めて茨城県の生涯学習課長の要職にあたられ、現在は水戸市内の小学校長の和田洋子さんが、ユーモアに富む司会で進行、大の石津政雄村長さん。水戸女性会議会長の静岡敏子さん。茨城大学助教の長谷川幸介さん。茨城アジアカ教育基金を支える会事務局長の中川紀子さんらのお話の中にこれからの社会教育の方向を示す発言で、会場から共感の拍手が湧きました。

第三日目は、種子島宇宙センター所長の打上げに従事され、その後筑波宇宙センター所長に栄転、地球観測衛星「みどり」の追跡管制に従事された宇宙開発事業団・筑波宇宙センター所長の菊山紀彦氏から「ここまで来た日本の宇宙開発」と題して、記念講演をいただきました。

今回の大会は、急に開催が決まり準備不足等でご迷惑をおかけした点多々あったことと思いますが、盛会で好評のうちに終了出来ましたことは参加された皆様をはじめ、関係機関・団体をはじめ講師、役員の方々に衷心より感謝申し上げます。

舞台大スクリーンに映写された二百枚におよぶ貴重なスライドで、私達には馴染みの薄い宇宙のようだが、現実には、日常生活に溶け込んでいる宇宙開発であることを解りやすくお話ししていただきました。

第二日目は、八部会に別れて研究討議が行われました。各部会とも二名の

大会締めくくりとして、「人権教育

茨城県社会教育委員連絡協議会会長
第三十八回全国社会教育研究大会
実行委員長 落合 勝雄

勝雄

北海道地区社会教育研究大会を終えて

日高山脈を背景とした「海と丘のまきば」の浦河町に、全道から六百五十余名が参加し、熱気に溢れた研究討議が展開され大きな成果を上げました。

開会式では、主催者を代表して北海道社連協会長 新谷淳治が、次のような要旨の挨拶を行いました。

社会教育委員は、望ましい社会をプロデュースする一端を担っています。同時に、定められた方向に向かっていかに効果的に展開されるか、いい芽を「触発」する役割も重要なポイントであらうと思います。

今、私達は瞬時にして世界の情報をも手に入ることができますが、容易に手に入らないものは「理性」や「感性（情感）」などであるうと思います。これらのことを社会教育活動の根底におき、展開する必要があります。

明年は釧路市で全国社会教育研究大会が開かれますが、北海道から「生死を考える」部会を発信して討議をしていただくなど、北海道らしいカラーをだして参りたいと思います。

一、研究大会の概要

○研究主題 『ふるさとを愛し、心豊かな逞しい人を育てる社会の創造をめざして』

○期日 平成八年十月十七日～十八日

○会場 浦河町総合文化会館 ほか

○講話 「馬つくりと人つくり」

(財) 軽種馬育成調教センター 専務理事 永田 雄三

○分科会の主題

①よりよく生きる生涯学習活動

②自然を愛する心を育む活動

③現代的課題に対応する学習活動

④高齢者の生きがいづくり

⑤余暇の活用と健康づくり

⑥地域の特色を生かした文化活動

○講演 「遅咲きの

新しい仕事は倍楽しい」

柴永国際学園ジェット日本語学校

校長 金 美齡

二、成果

参加者の積極的な研究討議や各地の創意ある活動から、生涯学習社会の創造に向けて、いかに対応し成果を上げているか確認することができました。

講話からは、騎手となる苦勞(育てる苦勞)や馬づくりの着眼点、「馬も人も育てるには共通点がある」などと示唆され、考えさせられました。

講演では、日本人には「ノー」と言える強さがないのでは?から始まり、人の役に立つ人間・感謝の心等を訴え「自分の人生こそ最大の作品」と印象的な言葉で締めくくられました。

北海道社会教育委員連絡協議会 事務局長 黒崎 匡俊

東北地区社会教育研究大会を終えて

新幹線「こまち」の開通を来春に控える秋田市を会場として「平成八年度東北地区社会教育研究大会」が九月二十六日～二十七日に行われました。

本大会は、今年度から発足した東北地区社会教育委員連絡協議会として最初の記念すべき大会であり、東北六県から八四三名の多数の参加者のもとに、「生涯学習社会における社会教育の役割を考える」を研究主題として盛大に開催されました。

◎九月二六日(木)

会場 秋田県総合生活文化会館

○記念講演

「文化の薫り豊かな町づくりをめざして」

オペラ作曲家 仙道 作三

(秋田県羽後町出身)

氏の作曲家としての歩みと秋田県琴丘町における町づくり事業「縄文ページェント『琴の湖』」への取り組みについてお話しいただきました。

○アトラクション

「縄文ページェント『琴の湖』」

講演講師の仙道作三氏の作曲・構成・演出・指揮による琴丘町の地域活性化イベントが、同町の皆さんによって上演され、多くの参加者に感銘を与えました。

◎九月二七日(金)

会場 秋田ビューホテル ホテルメトロポリタン秋田

○分科会

大会研究主題のもと、五つの分科会において、事例発表をもとに活発な意見交換がなされ、今後の生涯学習社会の構築に向けて、研究協議を深めました。

第一分科会 社会教育行政「能代市社会教育振興中期計画の策定から」

第二分科会 生涯学習とボランティア活動「なぜ今、ボランティアなのだろうか」

第三分科会 青少年教育「学校外活動の推進」

第四分科会 家庭教育「父親の家庭教育参加支援事業」の展開について

第五分科会 地域づくり「岩崎村における生涯学習及び地域づくりの推進について」

○全体会

総括助言の後、大会宣言の採択が行われました。

本大会を盛会のうちに終えることができましたのは、参加いただいた皆様と関係者の皆様の御協力の賜物と感謝申し上げます。

秋田県社会教育委員連絡協議会 事務局 藤谷 聡

関東甲信越静地区社会教育研究大会を終えて

実りの秋、新潟市と北蒲原郡豊浦町を会場にして平成八年度関東甲信越静社会教育研究大会が開催されました。

大会には、一都十県の社会教育委員及び社会教育行政職員等一六〇〇余名にもおよぶ多数の参加者を迎え二日間の研究大会を終了しました。

○研究主題

「生涯学習社会を目指す活力ある社会教育の創造」

○期日 平成八年九月十二・十三日

○会場 新潟県民会館、ホテル泉慶、ホテル冠月、ホテル摩周

○参加費 三千元

○開会行事

○記念講演

「歌づくり人生」
作詞・作曲家 遠藤 実

ホテルへ移動し情報交換会（豊浦町の月岡温泉。三ホテルに分散）

○分科会（二会場に分かれて）

第一分科会（生涯学習）

生涯学習推進体制の整備

生涯学習推進体制と社会教育委員

・社会教育計画の立案

第二分科会（家庭教育）

社会の変化に対応する家庭教育

・家族構成の多様化と家庭教育

・男女が共にすすめる家庭教育

第三分科会（青少年教育）

地域が支える青少年教育
・家庭・地域・学校の連携と青少年教育

・豊かな体験を与える学校外活動の充実と社会参加

第四分科会（高齢者教育）

高齢者の生きがいづくり

・高齢者の生きがいを高める活動

・世代間交流と社会参加

第五分科会（国際理解教育）

地域における国際理解の推進

・身近な国際交流活動のあり方

・学習機会の提供

第六分科会（まちづくり）

生涯学習とまちづくり

・学習活動を生かしたまちづくり

・スポーツ・文化・芸術活動の推進

○閉会行事

分科会ごとに閉会式を行う。

次年度開催県、静岡よりあいさつをいただき、全日程を終了しました。

遠藤 実氏は、少年時代から音楽を

目指し苦しい時代を生きてきた体験を

中心に講演。参加者の心をつかみまし

た。

分科会では、どの会場も熱気に満ち

た討論が展開され、研究主題にせまる

研究大会となりました。以上報告とい

たします。

（新潟県社会教育委員連絡協議会
事務局 中曾根 勝彦）

東海北陸地区社会教育研究大会を終えて

霊峰白山を望む森の都石川県の名勝兼六園近くの金沢市観光会館を主会場に、東海北陸一市六県の社会教育委員を、はじめとして社会教育関係者が参加し、開催されました。

〈研究大会の概要〉

①期日 平成八年九月十九日～二十日

②会場 金沢市観光会館、県立社会教育センター、市中央公民館等

③参加費 三千元

④参加者数 九百七十一名

⑤大会主題

「生涯学習の視点に立った社会教育の今日的課題を考え、来るべき二十一世紀への方向を探る」

⑥分科会

第一分科会 家庭教育

* 社会の変化と家庭教育

第二分科会 高齢者の社会参加

* 高齢者の生きがいを高める社会参加活動

第三分科会 人権教育

* 人権を尊重し、差別のない明るい地域づくりをめざす社会教育活動

第四分科会 青少年教育

* 時代の変化と青少年教育

第五分科会 生涯スポーツ

* 健康づくりのための生涯スポーツ

第六分科会 ボランティア活動

（石川県社会教育委員連絡協議会
事務局 山守 尚代）

* 生涯学習を支援する人材の養成と活用
第七分科会 生涯学習まちづくり
* 地域の特性を生かし、文化の創造をめざすまちづくり

⑦記念講演
「学びつつ心豊かに生きる」
元NHKチーフアナウンサー
川上 裕之

⑧大会宣言採択

⑨アトラクション 北都民謡会

〈所感〉
分科会は、7分科会に分かれ、各県の事例発表をもとに生涯学習社会における社会教育の今日的課題を把握し、多様化するニーズに対応した社会教育のあり方や社会教育委員の役割等について熱心な研究協議がなされました。

また、記念講演では、講師が歯切れよくわかりやすい口調で、日本各地の生涯学習の紹介や、ご本人の若い頃からの夢を実現させるべく情熱を燃やしていることなど身近な例を話しされ、参加者に明日の活動への実践的な示唆と感銘を与えました。

〈おわりに〉
本大会開催にお力添えを賜りました皆様、御参加いただいた皆様に厚くお礼を申し上げ、報告といたします。

（石川県社会教育委員連絡協議会
事務局 山守 尚代）

近畿地区社会教育研究大会を終えて

近畿地区社会教育研究大会は、新しい国際都市をめざす大阪において、近畿各府県から社会教育委員をはじめ社会教育関係団体関係者・行政職員等千四百名余りが参加して、盛大に開催されました。

―研究大会の概要―

○期日 平成八年七月十七日～十八日
○会場 大阪府立青少年会館 他

○研究テーマ

「生涯学習社会の構築に向けた社会教育のあり方を考える」

○基調講話

「生涯学習の振興について」

文部省生涯学習局主任社会教育官

今野 雅裕

○記念講演

「生涯学習と地域学」

大阪女子大学学長 上田 正昭

○分科会

第一分科会

テーマ「生涯学習の推進体制の整備とひとづくり・まちづくり」

第二分科会

テーマ「青少年の健全育成の視点に立った家庭・地域の教育力の向上」

第三分科会

テーマ「人権を尊重し差別を許さないひとづくり、まちづくり」

第四分科会

第五分科会

テーマ「高齢者が生きがいをもって活動できる生涯学習の社会づくり」

今回の近畿地区大会では、国際化・情報化・高齢化社会の到来等大きく変化する現代社会にあつて、人々が心豊かに生きがいをもって充実した日々を送ることのできる生涯学習社会の構築をめざして、各地域の社会教育活動の実践に基づいた取組み状況や課題等について討議を深めました。

記念講演では、上田先生の実践に基づいた「未来を展望し、地域に立脚して受信と発信をする地域学」のお話に参加者一同が深く感銘しました。

また、研究協議では、家庭・地域社会が学校と連携し、それぞれの教育機能を確立しつつ、その活性化を図ることが必要であり、社会教育に携わる者の果す役割の大きなことを改めて確認しました。

「人権尊重の精神を基盤とした生涯学習社会の構築や子どもたちの豊かな未来をめざした活力ある地域社会づくり」に貢献する旨の大会宣言の採択を行い、二日間の大会を終えました。

(大阪府社会教育委員連絡協議会 事務局 今村三郎)

中国・四国地区社会教育研究大会を終えて

本大会は、徳島市を会場にして中国・四国地区の社会教育委員をはじめ、社会教育行政の職員等九百十余名が参加して開催されました。

―研究大会の概要―

○期日 平成八年九月五日～六日
○会場 徳島県郷土文化会館
○参加費 二千五百円

④研究主題

「生涯学習社会の実現をめざした社会教育活動のあり方」

⑤シンポジウム

「ボランティア活動の推進と課題」
コーディネーター

徳島県子ども会連合会理事

細川 龍繁

シンポジスト

広島県熊野町教育委員会教育長 光本 吉伯
山口県社会教育委員 河村 太市
島根県連合婦人会長 小松 君江
⑥アトラクション

鳴門市第九を歌う会の合唱

⑦分科会

各分科会のテーマを設定して、各県からの実践活動報告をもとに、熱心な研究協議が進められました。

⑧第一分科会

青少年教育・青少年ボランティア活動
「青少年の自立を促す学校外活動のあり方を考える」

⑨第二分科会

「豊かなスポーツライフと健康増進のあり方を考える」

⑩第三分科会

社会体育・国際交流
「人権教育・同和教育
「差別のない明るい社会の実現をめざす活動のあり方を考える」

⑪分科会報告

⑫記念講演
演題 「私の人生より明るく豊かな世界を求めて」
講師 日亜化学工業株式会社 小川 信雄会長

本大会を盛会のうちに終えることができましたのは、参加者の皆様をはじめ、役員の皆様や運営に携わっていただきました関係者の皆様の御協力の賜物と深く感謝いたします。

(徳島県社会教育委員連絡協議会 事務局 多田 実)

九州地区社会教育研究大会を終えて

「海の青さに 空の青」

常夏の国 我した島 沖繩

沖繩県那覇市を会場に「第二十七回九州ブロック社会教育研究大会」が二日間の日程で開催されました。

大会には、九州・沖繩各県から社会教育委員をはじめ社会教育行政職員、社会教育団体の会員等千二百余名が参加し、再会を喜ぶ中にも熱気に溢れた研究討議が展開されました。

一 研究大会の概要

○研究主題

「生涯学習の視点に立つ社会教育のあり方」

○期日 平成八年十月八日～九日

○会場 パシフィックホテル沖繩

沖繩県女性総合センター

那覇市若狭公民館

○記念講演

「沖繩の民俗文化の特質について」

沖繩国際大学学長

平敷 令治

○参加数 約千二百名

○参加費 三千元

○アトラクション

伝統芸能・琉球舞踊の数々

宮城流美能留会

○分科会の構成

第一分科会 「社会教育委員の役割」

事例発表 宮崎県 沖繩県

第二分科会 「ボランティア活動の

推進」

事例発表 大分県 熊本県

第三分科会 「学校週五日制と学校外活動の充実」

福岡県 沖繩県

事例発表 「いじめ問題への対応」

第四分科会 佐賀県 福岡県

事例発表 「同和教育・人権教育」

第五分科会 長崎県 熊本県

事例発表 「社会教育関係団体の育成」

第六分科会 鹿児島県 佐賀県

事例発表 鹿児島県 佐賀県

二 成果

大会テーマのもと、生涯学習社会が進展する中で、人々の生きがい活動を支援し地域発展を促進するための社会教育の積極的な推進方策について研究討議を行い、今後の課題等を確認することができました。

三 おわりに

本大会を盛会のうちに終了することができたのも参加者をはじめ、運営に携わっていただきました関係者の御協力の賜物と感謝申し上げますとともに、次期開催地熊本県での再会を念じ、報告といたします。

（沖繩県社会教育委員連絡協議会

事務局 仲里 清義）

大会宣言

全国各地の社会教育委員をはじめ社会教育関係者が、秋深まる「歴史のまち」水戸市に集い、「一人ひとりの心が満たされる、魅力ある社会教育の在り方を考える」を研究主題に、第三十八回全国社会教育研究大会を開催した。

「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」が施行されはや六か年が経過した今日、国や地方公共団体における生涯学習推進体制の整備が大きく進展し、それぞれの地域の特色を生かした、生涯学習振興のための関連施策が積極的に展開されている。

このような状況のなかで、私たちは、生涯学習社会の実現をめざす観点に立って、各地域における社会教育活動の状況や研究の成果を交流し合い、社会教育の今日的な課題の解決をめざして交流と研究討議を深めた。

そして、一人ひとりの心が満たされる、生涯学習社会の実現のためには、家庭、学校、地域社会、企業、各種関係団体及び行政が、各々の役割を果たすとともに、より密接な連携・協力を進める必要がある、中でも最も広範囲で重要な領域である社会教育の役割と責務の大きさを自覚し、より一層の努力を誓い合った。

しかし、社会教育を取り巻く現状はなお課題が多く、その解決のためには、新たな対応が求められている。

そこで、本大会の総意をもって、次の事項の早期実現を期するものである。

- 一 人権を尊重し、差別のない明るい社会を実現するための教育を積極的に推進すること。
- 一 豊かな人間性とたくましい体をもち、生きる力をはぐくんでいくことのできる青少年の育成を図ること。
- 一 今日の課題に対応し得る社会教育を積極的に推進するため、社会教育関係法の整備及び財政基盤の確立を図ること。
- 一 男女がともに自らの意志で、社会のあらゆる分野に参画し、次の世代へつなぐ社会づくりを推進すること。
- 一 人々の学習活動を支援するため、社会教育施設・設備を充実するとともに、社会教育の専門的指導者の充実・確保並びにボランティア活動の振興を図ること。

以上、宣言する。

平成八年十月二十五日

第三十八回全国社会教育研究大会（茨城大会）

第39回全国社会教育研究大会をめざして

『道東の四季像』

- 春 船越保武作
- 夏 佐藤忠良作
- 秋 柳原義達作
- 冬 本郷新作

右に記しましたのは、釧路市の幣舞橋上にたたずむ四人の乙女のプロンズ像の季節と作者であります。

この幣舞橋が昭和五十一年に架け替えられた折に、全額を釧路市民の募金によって制作されました。

まことに見事なそれぞれのプロンズ像でありますが、同時にこの像に寄せられた市民の囁きが、しみじみと伝わってきて感動的であります。

正に釧路の浪漫の象徴と申せます。

さて、今年の第三十九回全国社会教育研究大会は、ただ今若干触れました北海道の東部（略称道東）に所在する二十万都市釧路市で、十月一日より三日間開催することになりました。

開催にあたりまして、次の三点についてご理解・ご賛同をお願い申し上げます。

北海道社会教育委員連絡協議会では平成四年より平成八年まで、五年間にわたり、北海道社会教育研究大会における研究協議の第一部会を、『生死を考える』部会として課題設定をして今日に到っております。

この度の全国大会におきましては、

『特別部会』で同様の協議題を提出させて頂きましたので、広くご論議をお願いしたいと存じます。

また、大会初日の夜には、全国の皆様との交流会を用意いたしましたので、お一人でも多くの方々のご参加を願って、胸襟を開いて、楽しい思い出に残る一刻となれば幸甚であります。

何はともあれ、暖かく迎えいたすために、諸準備を進めておりますので、ご来道を心からお待ち申し上げております。

次に、大会開催要項の概要を要約します。

◆大会スローガン

『北斗の星。ひびき合う心魂』

◆趣旨

全国の社会教育委員をはじめ、社会教育関係職員及び社会教育関係団体の会員等が一堂に会し、各地域における社会教育活動の状況や研究成果を交流し合い、生涯学習の観点に立って、社会教育の今日的な課題の解決をめざして研究協議を行う。

◆研究主題

『共に高め合う地域社会の創造をめざす社会教育を考える』

——心の豊かさを求めて——

◆期日

平成九年十月一日（水）

めの学習機会の充実について考える

◆第四部会（社会教育施設）

○様々な学習活動を支援する社会教育施設の運営について考える

◆第五部会（人権教育・同和教育）

○人権を尊重し、住みよい社会をつくるための社会教育活動のあり方を考える

◆第六部会（地域づくり）

○地域の特性を生かし、生き生きと学べる地域づくりについて考える

◆第七部会（国際理解・国際交流）

○国際的な視野を広げ、相互理解を深める交流活動のあり方について考える

◆第八部会（文化活動の振興）

○地域の文化を見つめ、住民が主体的に取り組める文化活動について考える

◆第九部会（スポーツ活動の振興）

○全ての世代が参加できる、生涯スポーツの振興について考える

◆大会事務局より

広野に丹頂鶴が舞い、夕陽が海に映える日暮れまで、自然がさまざまに表情を見せる『霧とロマンの街』釧路市に、多数お越し下さい。

北海道社会教育委員連絡協議会長
第三十九回全国社会教育研究大会
実行委員長 新谷 淳治

事務局だより

◆平成8年度第2回総会終る

平成8年度第2回の総会が第38回全国社会教育研究大会（茨城大会）の第1日目に次の通り開催されました。

日時 平成8年10月23日（水）

16時30分～17時30分

会場 茨城県水戸市サンレイク水戸

総会は定刻に司会者より開会を宣し、本総会は定款第26条により定足数（正会員数60名中出席者60名）を満たし成立する旨を告げ、まず鈴木勲会長の挨拶があり、次に落合勝雄第38回全国社会教育研究大会実行委員長より全国大会開催について、各県の協力に対してお礼の挨拶がありました。

ひきつづき議長の選任を行い、水本光夫岩手県会長を選出し、議事録署名人として秋山一夫栃木県会長と高島正信宮崎県会長を指名し議事に入りました。

第1号議案 第39回（平成9年度）全国社会教育研究大会の開催について
新谷淳治北海道会長より大会開催要項案について詳細な説明があり、期日は平成9年10月1日（水）、2日（木）、3日（金）の3日間、釧路市観光国際交流センターにおいて開催の旨発表があり、満場一致で承認、可決されました。

第2号議案 第40回（平成10年度）全国社会教育研究大会の開催地区（ブ

ロック）について

事務局より第40回全国大会の開催地区は東海北陸地区（開催県岐阜県）になる旨発表。辻欣一岐阜県会長より期日は平成10年10月21日（水）～23日（金）、会場は岐阜市の長良川国際会議場になる旨説明があり、全員異議なく承認、総会は閉会しました。

◆平成9年度 地区別社会教育研究大会開催概要について

東北地区 宮城県 9月17日～18日
主題「生涯学習社会における社会教育の役割を考える」

関東甲信越静地区 静岡県
主題「豊かな人生を創出する社会教育・社会教育委員の役割」

東海北陸地区 三重県10月30日～31日
主題「これからの生涯学習社会における社会教育の在り方を考える」

近畿地区 奈良県 8月19日～20日
主題「生涯学習社会における社会教育の今日的役割」

中国四国地区 山口県8月7日～8日
主題「生涯学習社会の実現をめざした社会教育活動のあり方」

九州地区 熊本県 10月30日～31日
主題「一人一人が輝く社会教育」

指定都市 千葉市 5月22日
◆県・指定都市の社教連会長に就任

山口県 河村 太市
神戸市 森本 泰好

（敬称略）

第23回 ヨーロッパ社会教育視察団参加者募集

本会は昭和50年度より毎年社会教育委員、教育委員、社会教育行政職員、社会教育団体会員等のためにヨーロッパ諸国の社会教育事情の視察団を編成し、実施して参りました。本年も下記の内容で第23回ヨーロッパ社会教育視察団の団員募集を開始致しますので、またとない機会に是非ご賛同頂きご参加をお勧め致します。

1. 目的 ヨーロッパ各地の社会教育施設を見学して、その活動状況を視察する。さらに各国の著名なる建造物、史跡、博物館・美術館を巡り教育文化を学ぶ。
2. 期間 平成9年10月27日(月)～11月8日(土)
東京→ボン(1泊)→フランクフルト(1泊)→ミュンヘン(2泊)→チューリッヒ(1泊)→ベニス(1泊)→ミラノ(2泊)→パリ(2泊)→東京
4. 主要視察先
ボン…早稲田大学ヨーロッパセンター、ドイツ国民大学協会、ボン大学、市庁舎、ベートーベン生家
フランクフルト…ライン河古城、ゲーテ生家、聖パウロ教会、メッセ会場
ミュンヘン…社会教育センター、成人学校、アルテピナコテーク、ニンフェンブルグ城、ドイツ博物館、ロマンチック街道、ノイシュバンシュタイン城
チューリッヒ…グロスミュンスター寺院、バーンホフ通り、チューリッヒ大学、国立博物館
ベニス…サンマルコ広場、ドゥカレ宮殿、ため息の橋、ガラス工房
ミラノ…成人学校、ドゥオモ広場、スカラ座、サンタマリアデラグラツェ教会
パリ…国立図書館、ルーブル美術館、ノートルダム寺院、凱旋門、コンコルド広場
5. 参加経費 498,000円（全朝食付、ベテラン添乗員が全行程ご案内致します。）
※社会教育委員の方には、本会から20,000円の助成金があります。
※全食事を加えた場合、約75,000円の追加経費でご手配致します。
6. 募集人員 25名（先着順、定員になり次第締切）
7. 募集締切 10月3日(金) 10月上旬旅行説明会開催
8. 応募方法 はがきで全国社会教育委員連合へお申し込み下さい。
なおご請求下されば詳細資料等お送り致します。
9. 旅行業務 旅行に関する一切の業務は、近畿日本ツーリスト(株)ノ門海外旅行事業部が担当します。
10. 連絡申込先 〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-2-3 国立教育会館内
(株)全国社会教育委員連合 TEL. 03-3580-0608

ライン河、ロマンチック街道
北イタリアの大型バスでのドライブ
とTGV列車の旅